

## 地域社会や人々との交流・相互理解を大切にしています。

大成ロテックが手掛けている道路舗装工事などは、全国津々浦々に広がっています。私たちが何よりも大切に考えているのは、それぞれの地域の皆様より安全で便利な暮らしや活力ある社会づくりに少しでも貢献することです。その願いをこめて、地域でのさまざまな行事への参加や交流により、その地域に「良き企業市民」として溶け込み、相互の理解と信頼を深めることに努力しています。

### フリースタANDINGバスケットを贈呈

2008年6月、大成ロテック北海道支社(平賀達夫支社長)と安全衛生環境協力会(三浦昌訓会長)は、洞爺湖町にフリースタANDINGバスケット10基を贈呈しました。

同年7月、洞爺湖サミットが開催され、各国首脳を迎えるに



JR洞爺湖駅前に飾られたフリースタANDINGバスケット。

先立って、地域社会への貢献の一環として行ったものです。当社が贈ったフリースタANDINGバスケットは、JR洞爺湖駅前に設置され、市民の目をなごませていました。



長崎良夫町長から感謝状が贈られた。

### 沖縄の伝統行事ハーリー(祭)に参加

ハーリーとは、海からの恵みに感謝し、安全と豊漁を願う、沖縄の漁師さんたちの伝統行事。起源は18世紀の始めにまでさかのぼるそうです。

呼び物は、爬龍(はりゅう)船と呼ばれる独特のボートに

よる勇壮な競技。この伝統の行事に参加し、大いに楽しむとともに、地域の幅広い方たちとの親睦を深めました。



子供たちはスイカ割りに挑戦。楽しい一日を過ごした。



手漕ぎのボートで競い合う勇壮で楽しい行事。沖縄各地で、こうした祭が行われる。

### 関西草野球界の星? 地域交流に活躍

関西支社、大阪営業所、神戸営業所、京阪営業所、中央官庁営業所のメンバーで2003年に結成した野球チーム、ロードスターズ。「道路界の星」という意味がこめられています。

2005年から大阪市内の草野球リーグに参戦し、初年度4位から、2006年には初優勝を果たし、翌07年も連続優勝と大活躍。3連覇を狙った08年は、惜しくも準優勝でした。

草野球リーグには、企業・学校・個人など地域の人たちが大勢参加し、野球を通じて幅広い交流と親睦を深めています。

業務だけでなく、スポーツなどさまざまな機会を通じて、地

域に密着し、親しまれる企業文化づくりにも一役買っていると自負しています。



今年も優勝をねらうぞ! 関西で阪神に並ぶ人気(?)ロードスターズの面々。

# 技術研究所

## 環境を中心テーマに、社会と時代の要請に応える開発・研究を推進

大成ロテック技術研究所は、昭和39年の開設以来、道路舗装の基礎技術、応用技術の開発研究を行っています。平成3年に、現在の埼玉県鴻巣市に移転しました。研究テーマは、つねにその時々々の社会のニーズに目を向けて決められています。

### 社会や時代が必要としている課題を研究

鈴木秀輔所長代理は、技術研究所についてこう紹介する。「アスファルトやコンクリートなど、舗装に用いる材料や施工方法・施工管理手法に係わる開発研究を始め、自然と生活環境の改善、社会と時代のニーズの変化にも対応した活動を実施しています」

現在、所長以下11名の研究員がここで研究にいそし

んでおり、その時々々の社会の動きや切実なニーズに応えるために、公共機関などとの共同研究を行うこともあります。



鈴木所長代理

### 環境問題が大きなテーマ

現在進行中のテーマの中でも、環境問題は大きな比重を占めています。本CSR報告書でも紹介している中温化アスファルト混合物(ビスコミックス)によるCO<sub>2</sub>発生量の削減や保水性舗装、遮熱性舗装などによるヒートアイランド対策も環境対策技術の一部です。また、寒冷地における路面凍結の防止など、安全と

自然に密接にかかわる研究も続けられています。

平成3年に移設された技術研究所。本CSR報告書でご紹介している技術の多くも、ここで生まれたり、改良を加えられたりしたものです。



回転ラベリング試験機(路面の耐久性を評価できる試験機の一例)「道路舗装用材料がタイヤの走行によって受ける影響を評価する」と解説する、青木課長代理。



様々な測定機器がならぶ、実験棟通路



温度や湿度を自由に設定できる環境試験室(室温:-20℃~60℃。湿度:20%~95%)

## Column

### 「雪国出身だから、道路凍結には切実な実感があります」と語る稲本主任



寒冷地における路面凍結を抑制する舗装の研究にたずさわっている稲本主任。舗装に凍結抑制材を混入させることで、路面の凍結温度を-5℃程度まで下げることができ、路面の凍結を遅延・抑制することができます。実験と分析・レポートを繰り返す日々。思った通りの結果が出るとうれしくなるが、予想と異なった実験結果が出ると、四六時中頭を離れないといいます。より高性能な技術を開発し、その成果を対外的に発表できるようになりたい、と抱負を語っています。